

学生の正課外プロジェクト活動による科学啓発・地域連携活動と キャリア教育効果

Educational advantages for career development of students through out-of-curriculum
project activities for science enlightenment and regional collaboration

千歳科学技術大学 長谷川 誠

Chitose Institute of Science and Technology Makoto Hasegawa

E-mail: hasegawa@photon.chitose.ac.jp

1. はじめに

正課外の学生プロジェクトとして活動を展開している千歳科学技術大学・理工工房⁽¹⁻³⁾に関して、活動の特徴を紹介した上で、得られる学生教育効果及びそれらが実現できている背景を検討する。

2. 活動の概要と参加学生のアンケート結果

活動開始の時点から平成 25 年度末までの本学生プロジェクトの年間活動実績の推移を、図 1 に示す。着実に増加してきた活動件数は、ここ数年はほぼ落ち着いた状態になっている。

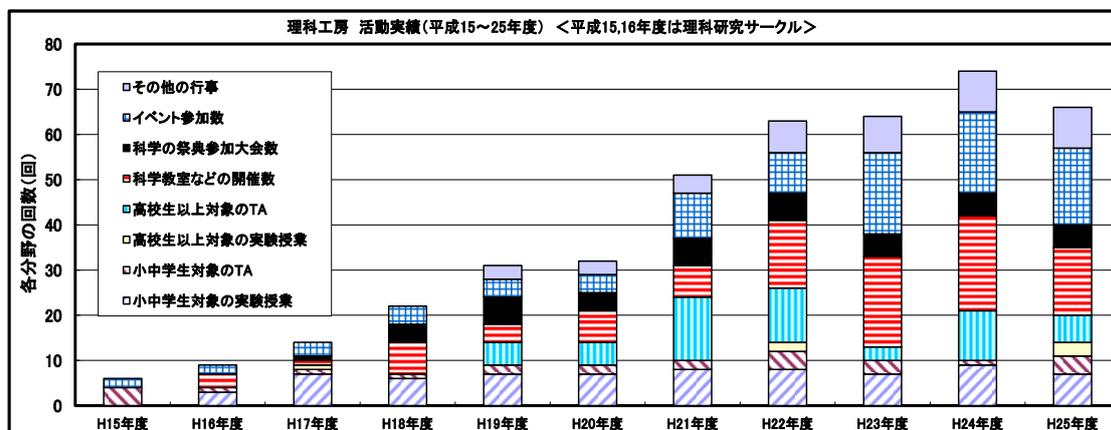


図 1 学生プロジェクト「理工工房」の年間活動実績の推移

平成 25 年 10 月時点で 1 年間以上在籍・活動していた学生メンバ 18 名を対象に実施したアンケートでは、過去の同様の調査結果と同じく、本活動で獲得・向上できたと考える能力・スキルとして「協調性」「コミュニケーション能力」「プレゼン能力」「企画力」等を挙げる学生が多かった。単なる知識の獲得・再確認だけではなく、キャリア教育的な効果が得られていると考えられる。

3. 活動の特徴

上述の教育効果が得られる背景には、本活動の以下のような特徴があると考えられる：(1)単位取得を目的としない正課外活動である、(2)学生の自律性・主体性を尊重する活動である、(3)年間活動件数が多い、(4)異なる学年の学生が参加する活動である、(5)真の連携を考える学外関係者(教育機関の教職員、PTA、市民団体、商店街・町内会など)との協力・連携関係が構築されている。

4. おわりに

学生の自律性・主体性を尊重した正課外活動の形態を維持しながら、活動を継続させたい。

参考文献：(1)2013 年第 60 回応用物理学会春季学術講演会講演予稿集, p.01-031, No.28a-PA1-15(2013-03) (2)応用物理教育, vol.37, no.2, pp.91-94 (2013-12) (3)2014 年第 61 回応用物理学会春季学術講演会講演予稿集, p.01-026, No.18a-PA1-15 (2014-03)